

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 授業方法 | 単位 | 時間 | 関連の深い授業科目 |
|--|-----------|---|-------------------|----|------------------|
| 専門 | 基礎はりきゅう理論 | 講義 | 1 | 20 | 公衆衛生、はり・きゅう実技1～9 |
| 学科・学年 | 担当教員名 | 科目関連 実務経歴 | 実務経歴・分野・授業科目との関連等 | | |
| 鍼灸学科 1年 | 川口 拳 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 特記事項なし | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 鍼灸治療に関する知識の習得 臨床で用いる技術、リスク管理、衛生的処置等の学習 | | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 実技で使用する道具やさまざまな手技の概要について学び、実技のための基礎となる科目です。 授業では主にプリントを配布します。補足説明をしていきますので、口頭説明なども積極的にメモを取っていき勉強に役立てて下さい。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書: 東洋療法学校協会編「はりきゅう理論」 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。 ● 授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。 ● 授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。 ● 授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。 ● 当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。 <p>※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。授業の聴講は許可しますが、出席簿は「欠席」扱いとなります。(公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合 (%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 定期試験を1回予定しています。 詳細は授業内にて説明します。 | | | |
| その他 | | | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 | 開講 予定日 | テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料 | 授業日誌 | 開講日 | 担当教員 (備考) |
|----|-----------|---|------|-----|--------------|
| 1 | | オリエンテーション 鍼灸施術の意義、鍼灸治療の特徴 用具について、古代九鍼について | | / | 川口 |
| 2 | | 刺鍼の方式(撚鍼法、打鍼法、管鍼 法)、 刺鍼の術式(前揉法・後揉法、押手・ 刺手、切皮、刺入法、刺鍼の角度) | | / | 川口 |
| 3 | | 刺鍼中の手技① 十七手技(単刺術、雀啄術、間歇術、 屋漏術、振せん術、置鍼術、旋撚術、 回旋術、乱鍼術、副刺激術、示指打 法) | | / | 川口 |
| 4 | | 刺鍼中の手技② 十七手技(随鍼術、内調術、細指術、 管散術、鍼尖転移法、刺鍼転向法) | | / | 川口 |
| 5 | | 特殊鍼法(小児鍼、皮内鍼・円皮鍼、 灸頭鍼、低周波鍼通電療法、その他) | | / | 川口 |
| 6 | | 灸の基礎知識 灸の材料、モグサの品質、モグサの種 類、線香 教科書P20～22 | | / | 川口 |
| 7 | | 灸術の種類 有痕灸(透熱灸、焦灼灸、打膿灸)、 無痕灸(知熱灸、温灸、隔物灸、薬物 灸) 灸の着火方法 | | / | 川口 |
| 8 | | 鍼灸の臨床応用 鍼灸の刺激量、個体の感受性、鍼灸 療法の適応・禁忌について学ぶ | | / | 川口 |
| 9 | | 確認テスト 復習 | | / | 川口 |
| 10 | | リスク管理 リスク管理の基本、鍼療法の過誤と副 作用 | | / | 川口 |